

都市再生整備計画 事後評価シート
戸畑地区

平成29年2月

福岡県北九州市

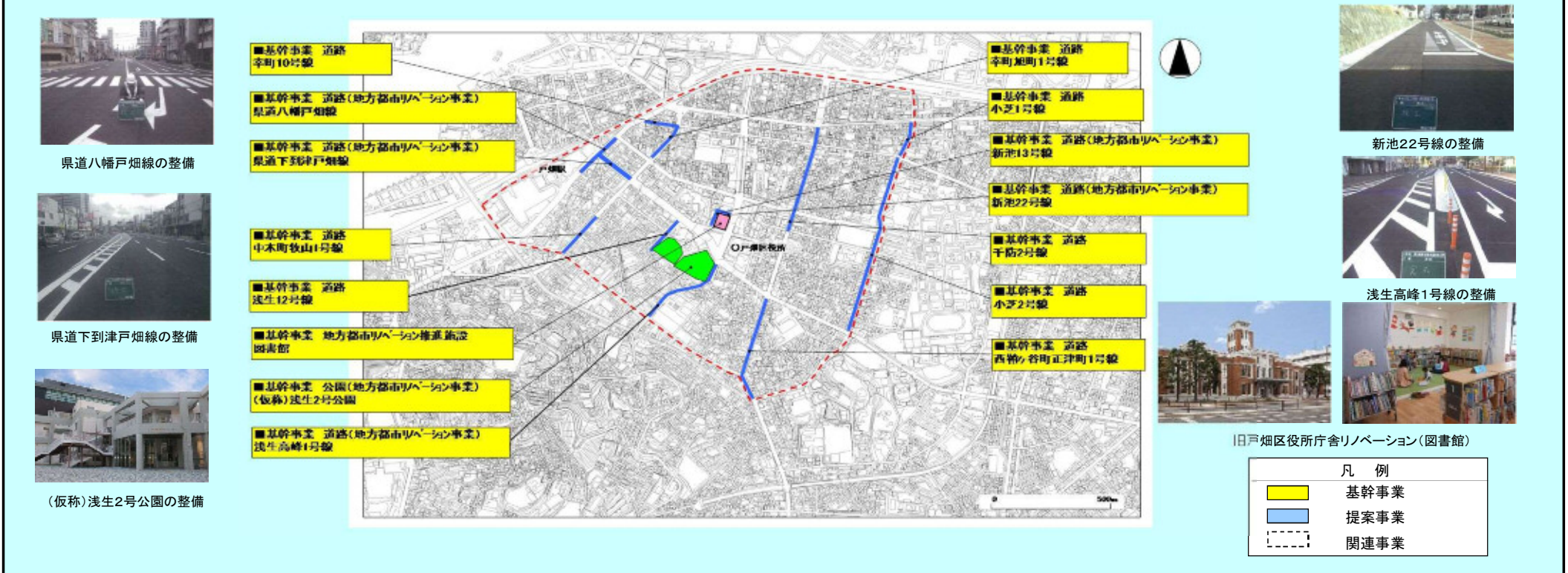
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	北九州市		地区名	戸畑地区			面積	186.0ha				
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	4.063百万円	国費率	0.49						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路:幸町10号線、幸町旭町1号線、千防2号線、中本町牧山1号線、小芝1号線、小芝2号線、浅生12号線、新池22号線、新池13号線、浅生高峰1号線、西鞆ヶ谷正津町1号線 既存建築物活用事業:旧戸畑区役所庁舎(地域交流センター)												
		提案事業	地域創造支援事業:旧戸畑区役所庁舎(図書館)												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	-		-		-			-					
		提案事業	地域創造支援事業:旧戸畑区役所庁舎(図書館)		旧戸畑区役所庁舎の地域交流センターと図書館を「図書館」にまとめ、地方都市リノベーション推進施設対象事業とした。		事業は同じため、指標及び数値目標は据え置く。								
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(地方都市リノベーション事業):(仮称)浅生2号公園 道路(地方都市リノベーション事業):県道八幡戸畑線、県道下津戸畑線		公園:体育館や室内温水プールなどを整備することで、市民の健康増進や、各種スポーツ大会などを開催し、地域の活性化に寄与する。また、戸畑区の中心部に大規模予定避難所として活用できる体育館などを整備し、防災機能の向上を図り、戸畑区民の安全で安心な生活環境を整えるため。 道路:アクセス機能及び利便性の向上を図るため。		指標、数値目標への影響が大きいため、小目標を修正し、指標を追加・修正する。								
提案事業		-		-		-			-						
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成25年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		事業を追加したことにより最終年度を平成25年度から平成27年度に延ばし、指標も新たに加え、指標に対する効果実測の時期も延ばすことになった。									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	地域交流スペース講座等実施数	件	従前値	0	目標値	50	数値	68	目標達成度	○	1年以内の達成見込み	あり	従前基準年度のH21年度には地域住民の学習活動やコミュニティ活動の場が十分に無かったが、地域交流スペースを設けることにより、住民の相互交流が行えるようになり、地域活性化の拠点として文化・交流等の都市活動・コミュニティ活動を支える中核的な施設として活かされた。	
				基準年度	H21	目標年度	H27	モニタリング		評価値		達成度			
	指標2	図書館利用者数	人	従前値	71,923	目標値	104,758	数値	140,459	目標達成度	○	1年以内の達成見込み	あり	旧図書館には無かったエレベータの設置等によるバリアフリー化、一般図書室および児童室の拡充、駐車場台数の増加など、障がい者、子ども、高齢者などにも使いやすくなったことや、閲覧席数が122席から225席に増加したことなどにより、利用者数が増加したと考えられる。	
				基準年度	H21	目標年度	H27	モニタリング		評価値		達成度			
	指標3	利用者満足度	%	従前値	50	目標値	80	数値	94.4	目標達成度	○	1年以内の達成見込み	あり	旧図書館に比べて施設や駐車場面積等が広がったこと、児童室の整備やエレベータ設置などによる利用者の特性に配慮した点などから図書館の使いやすさに関して高い評価を得ることができた。また、84.7%の方が図書館への交通アクセス、駐車場に関して満足しているという回答を得ることができ、図書館周辺の道路整備による効果があったと言える。	
				基準年度	H23	目標年度	H27	モニタリング		評価値		達成度			
指標4	スポーツ施設利用者数	人	従前値	約140,000	目標値	約190,000	数値	264,000	目標達成度	○	1年以内の達成見込み	あり	戸畑区内の老朽化したスポーツ施設が集約、新設され、また、戸畑駅やバス停に近く、周辺道路の整備や駐車場も十分に整備されたことにより、施設へのアクセシビリティが向上したことから、利用者数が増加した。	平成29年9月	
			基準年度	H23	目標年度	H27	モニタリング		評価値		達成度				なし
指標5	大規模予定避難所数	箇所	従前値	0	目標値	1	数値	1	目標達成度	○	1年以内の達成見込み	あり	浅生スポーツセンターを大規模予定避難所として機能する設備を整備することによって、北九州市地域防災計画の中で大規模予定避難所に指定された。		
			基準年度	H23	目標年度	H27	モニタリング		評価値		達成度				なし
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期						
4) 定性的な効果発現状況	・戸畑区の歴史的シンボルである旧戸畑区役所をリノベーション整備したことにより、専門家による建築に関する賞を多数受賞するなど、まちづくりやシビックプライドの醸成に貢献している。														
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等							
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		-		-		-		-				
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		-		-		-						
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-		-		-						
住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		-		-		-		● 今後も、地域住民と連携し、まちの活性化に取り組む。					
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		-		-		-							
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-		-		-							
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		-		-		-		-					
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		-		-		-							
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-		-		-							

様式2-2 地区の概要

戸畑地区（福岡県北九州市）都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：公共施設等が集積する戸畑区役所周辺の魅力を高め、安全・安心に、市民が集いにぎわう交流のまちづくりを推進する。	地域交流スペース講座等実施数	件	0	H21	50	H27	68	H27
目標1：戸畑区の歴史的シンボルである旧戸畑区役所庁舎について、地域の文化・交流の拠点となる施設として、利用者の利便性にも配慮した再整備を行い、賑わいの創出を図る。	図書館利用者数	人	71,923	H21	104,758	H27	140,459	H27
目標2：戸畑区役所周辺の都市機能の集積に対応し、周辺の道路や駐車場の整備を行い、アクセス機能および利便性の向上を図る。	利用者満足度	%	50	H23	80	H27	94.4	H27
目標3：広い体育館や室内温水プールなどを有する公園を整備することで、市民の健康増進に寄与すると共に、各種スポーツ大会などを実施し、地域の活性化にも寄与していく。	スポーツ施設利用者数	人	約140,000	H23	約190,000	H27	264,000	H28
目標4：戸畑区の中心部に、大規模予定避難所として活用できる体育館などを有する公園を整備し、防災機能の向上を図り、戸畑区民の安全で安心な生活環境を整える。	大規模予定避難所数	箇所	0	H23	1	H27	1	H28



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の整備により、美しい街並みを形成するとともに、シビックプライドの醸成にも寄与している。また、地域の文化・交流の拠点となる施設として地域交流スペースを設けたことにより、市民向け講座や展示を行えるようになり、賑わいの創出につながった。 図書館及びスポーツ施設周辺道路や駐車場の整備により、各施設へのアクセス、利便性が向上するとともに、高齢者や障害者など誰もが移動しやすい生活環境が形成された。 老朽化し、戸畑区内に点在する体育館や弓道場、プールなどのスポーツ施設を集約することによって、施設の保全・管理の効率化が図られ、また、利便性の向上によって、市民の健康増進に寄与し、各種スポーツ大会などを通して、地域の活性化が図られた。 大規模予定避難所が整備されたことにより、都市の防災機能が向上し、住民の安全で安心な生活環境が整備された。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の利用者数・満足度を確保しながら、地域交流スペースの有効活用によって、地域住民と協働して、まちの賑わいを創出する。 スポーツ施設の利用者の増加促進によって、市民の健康増進、スポーツ大会等の開催による地域の活性化を促進する。 高齢者や障害者など誰もが円滑に移動できる環境を整えとともに、更なる周辺への回遊性の向上を促進する。 災害時の大規模予定避難所として、広く市民に周知するとともに、災害時に機能できるように、避難訓練等を実施する。